

Title	尾張國遺存 織田信長史料寫真集
Sub Title	
Author	淺子, 勝二郎(Asako, Shojiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1931
Jtitle	史学 Vol.10, No.4 (1931. 12) ,p.150(704)- 150(704)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19311200-0151

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

天皇奉祀の御所神社を中心として、御遺蹟の顯彰に努力せらるゝは、衷心より感謝する次第である。

本書は簡にして克く要を得たる快著にして、學界に多大の貢獻をなすものたることを確信し、之れを江湖に紹介して擱筆する。

(昭和六年十月三十日 宇宿 捷)

尾張國 遺 存 織田信長史料寫眞集

本集は織田右府公薨逝三百五十年記念として名古屋温故會から頒布されたもので、多年研究調査した史料史蹟中、尾州に遺存する關係資料を寫し、類聚し、更に簡單な解説を附したものである。

資料中疑點あつて他日の攷證を待つべきもの、或は寫眞撮影を許されず、解説上必要な報告を得られず收録を見合せたもの若干あるこのことではあるが、該尾州所在の公に關する遺品遺蹟は實に大體本集に網羅されてある。

即ち畫像六葉、書狀二十九葉、制札四葉、定書一葉、領中方目録一葉、反錢領納書一葉から、堆朱赤壁圖盆以下の遺品、熱田神宮海上門、津島神社本殿、古渡城址、桶狭間古戰場址、墓所に至る迄合せて五十七葉を収録してある。本集は會員に頒布するもので非賣品なそうではあるが同好の士には賞費でお譲りすることである。

申込所 名古屋市西區島田町二丁目十一番地 (淺子勝二郎)

東方學報 京都 第一冊

東方文化學院京都研究所研究報告第一冊として新進氣鋭の所員諸氏によつて公けにされたもの、今その掲載諸論文の内容概要を左に示さう。

甘石星經考

能田 忠 亮

先に上田穰博士が大唐開元占經中に見えてゐる「石氏曰」の條下の天文記事中、恒星の去極度と入宿度の研究により其の平均觀測年代算定を試みられた「石氏星經の研究」の方法に従つて、漢甘公石申著と傳へられる所謂甘石星經に就いて、研究せられたもので、先づ研究材料として程刻・何刻・王刻三種の漢魏叢書・五朝小説・說郛記載の各星經を異同表により比較し、その同一系ならん事と、程刻のものが比較的原本に近い事を推し、次いで星經の如き材料より支那上代の天文学を研究する場合、古人の云ふ星が今の何星に當るかを知らる唯一の手掛として支那歴代の星表星圖の必要を述べ、其等の歴史を説き、而して星の觀測年代算出法は前述の如く上田博士の法に従ひ、星經に記載せられた星の一つ一つを現代のものに照合し、ボスの表によりその位置を知り、各「去北辰度」即「北極距離」を半徑とし、その各星を中心として圓を描くことすれば、それらの圓の交點は觀測當時の北極であるから、これがニューカムの北極移動曲線上の何處にあるかに依つて、觀測年代を決定し得るさし、此の方法を採るためには距星を照合して、例へばバイエル氏の記號法に依つて星を表さなくてはならないので、次節に於いて星の照合と吟味を行ひ、その結果照合し得た三十五箇の星に